

婦人子も

第十六卷

第九號

フレイベル會

本 號 目 次

◎モンテソーリ教育説に就て……………	河 野 清 丸
▲お月様(スチグンソン)……………	K T 生
◎幼年唱歌に就て……………	葛 原 菫
▲卓上より……………	
▲下田氏の「母と子」……………	倉 橋 生
▲東の玩具追記……………	記 者
▲雑録……………	

本誌定價

一冊 郵税共金拾參錢 六冊前金郵税共七拾貳錢
拾二冊同金壹圓四拾四錢 郵券代用 一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内フレーベル會事務所宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々木山谷一二四倉橋惣三宛

大正五年九月五日印刷納本

大正五年九月五日發行

編輯兼發行者 倉 橋 惣 三
東京府豊多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四番地

印刷者 東京市本所區番場町四番地 岡 功

印刷所 東京市本所區番場町四番地 凸版印刷株式會社本所分工場

發行所 フレーベル會
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

顧問 高島平三郎先生

モドコ

日本一の繪雑誌

本誌の特色

- | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 記事の面白いこと | 繪の美しいこと | 最も平易なこと | 最も教育的なこと | 最もまじめなこと |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

本誌は最も着實にして教育的幾多畫雜誌中獨自の地歩を占む。記事は全部片假名にて極めて平易。八九歳以下の子供の絶好伴侶なり。

發行所 東京市小石川區林町五十七

モドコ社
電話 番 振
番 東 京
番 六 二
番 七
番 一 九
番 六
番 八 三
番 番

定價一冊拾錢
郵稅五厘
□六冊郵稅共
五拾八錢
□十二冊郵稅
共壹圓拾錢
□總て前金の
事

日本 幼 年 本 日

□ 倉橋惣三先生監修

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い噺とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雜誌です。

本誌は、玩具とお噺しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となります。

定價

壹冊拾錢 □ 半年 郵税共六拾參錢
 郵税壹錢 □ 壹年同 壹圓貳拾錢

婦人畫報
少女畫報
日本幼年

發行所

東京橋鍛冶橋外
振替東京四九〇〇

東京社

婦人と子ども

大正五年九月五日
第十六卷 第九號

モンテソリーの教育説に就て

日本女子大學校附屬
小學校主事 文學士

河 野 清 丸

序論……………伊太利教育の特徴——モンテソリーの教育の沿革。
本論……………知育——訓育——體育。
結論……………自由主義と兒童觀察。

序 論

伊太利教育の特徴

伊太利の教育はその教育革新運動の影響を受けた結果として甚しく科學的である、哲學といふものをまるで取込んでゐない。純粹に科學的な教育これが伊太利教育の特徴である。教育といふものは哲學を全然顧みずに科學的にのみ行はるべきものであるといふやうな見方に對しては私は贊成出

來ない、何故ならば教育の目的論は何としても哲學から出て來なくてはならないからである。しかし兎に角モンテソリーは伊太利の教育革新家の一人である、而して今日のところでは最後の一人である。

科學的な教育とは人類學、實驗心理學、實驗教育學を基本學科として被教育者を系統的に研究するものである。身體の方は人類學的に研究し、精神の方は實驗心理學的及び實驗教育學的に研究す

る。これが伊太利教育學の傾向である。而してモンテソリーはこの伊太利教育の——今日のところ——最後の大家である。モンテソリーが婦人の身を以て教育上斯る重要な地位を占めて居るといふことは頗る注目に價することである。

モンテソリーの教育の沿革

モンテソリーは醫科大學を卒業した醫學博士である。伊太利で婦人の身を以て醫學博士の稱號を得たのはモンテソリーが最初である。モンテソリーは大學卒業後、異常兒の教育に従事した、而して種々苦心を重ねた結果、異常兒教育に於て著しい効果を收め得るに至つたのである、そこでモンテソリーはこの異常兒に施す教育を普通兒にも應用してみたらば何うであらうかと考へ始めた、丁度その時一方に於て、ローマでは貧民家屋改良の議が盛んに唱へられ出した。一體ローマの貧民窟は實に慘憺たるもので、家賃を取り立てる爲めに

狭い所へごちや／＼と澤山の家を建てるので光線は通らず、體^すゑたやうな空氣が充滿してその中で赤ん坊が泣く、不具者が喚く、大人が喧嘩する、まるで此の世ながらの地獄である。そこで是非ともこの貧民家屋を改良しなければならぬといふ聲が大となり、遂に家屋改良會社なるものが成立するに至つた。エドワード・タラモーといふ人がこの會社の社長となり、通氣、採光に注意して貧民家屋の改築に取掛つた、而してタラモーは學齡以前の子供が家に居ると家を傷けて困るがこれは何うしたものであらうと考へて托兒所の設立を思ひ立つた。タラモーはそこでこの相談をモンテソリーのところへ持ち込んだのである。モンテソリーは喜んでタラモーの相談に乗り、托兒所を拵へた。これが即ち有名な「兒童の家」である。

本論

知育

モンテソリーの知育で珍しいのは感覺教育であつて、これが實に系統的に行はれて居る。熱い冷たいの溫覺教育から匂ひを嗅ぐ嗅覺教育、視覺、觸覺、聽覺の教育、即ち心理學で所謂感覺の教育を系統的に順序立てゝ分解的に行ふのである。

從來とてもベスタロッツやフレーベルが感覺教育を顧みなかつたのではないのであるが、**モンテソリーは感覺教育を更に一層重く見て、これを科學的に、分解的に行つたのである。**その中でも視覺の教育は最もモンテソリーの力を盡したところである。視覺は諸感覺中一番高尚なものであつて代表的感覺と目せらるべきものである、モンテソリーが視覺の教育に力を盡したのは故あることである。少しく餘談に亘るが視覺が代表的感覺であるといふことを説明すれば、例へば直觀敎授といふ言葉がある、これはたゞ實地に見るといふことだけを意味して居るのではなく、すべての感覺器官に訴へることを意味して居るのであるが直觀と

いつて觀（即ち視覺）で代表させて居る。又觀念といふ言葉があるが、これも字の成立から言へば他の當然成語となるべき觸念、聽念、嗅念等を代表して、觀念といふ言葉のみが排外的に承認せられて居る、これ亦視覺の代表感覺たることを證するものではないか。又佛敎の方で「色即是空、空即是色」といふが、この色も色ばかりを現すのではなく森羅萬象（即ち感覺器官によつて知り得べきすべてのもの）を指すのである。然るに色とのみ言つて他を代表させて居る。

視覺教育は次の三つに小別せられる。

形狀の感覺を養ふもの
視覺教育 大小の感覺を養ふもの
色彩の感覺を養ふもの

【**形狀の視覺教育**】——この爲めには薄板を圓形、方形、菱形、多角形等種々の形に作つて置き、又是等の形を嵌め込むべきフレーム（枠）をも作つて置く。これらの形とそれに對する枠とは皆で三

十六枚ある。最初は圓形と方形とを取り出して、

それ／＼枠を外して机の上へ投げ出して置く、兒童はこれを拾ひ取つて圓形は圓形の枠へ、方形は

方形の枠へそれ／＼嵌め込むのである。モンテソ

リーは對照（反對）の甚しいところのものから教

へ出し、次第に反對の度の尠いもの、即ち似寄つ

たものに進むといふことを原則として居る。故に

一番初めは圓形と方形とを枠に嵌め込む遊戲を行

はせるのである。加之に圓形はどんな風にもつて

行つても枠に嵌めることが出来る、方形は圓形程

容易ではないが矢張やさしく嵌めることが出来る

不等四邊形になると稍々六ヶ敷くなる。モンテソ

リーは兒童に觸筋覺を働かさせて先づ枠を極く輕

くさすらせ、次ぎに形の邊をさすらせて前と同じ

感じを得たら嵌めてみるといふやうにさせるので

ある、これが最新心理學の智識を應用したと言つ

てモンテソリーの誇る點なのである。尤も日本の

兒童はこれを行はせてみると、さすらずにドンド

ン嵌めて了ふ、私はさすらなければさすらなくともよいと思ふ、無理にさすらせるのは反つてモンテソリーの自由主義に背くわけである、この邊は囚はれずに臨機應變に行ふべきである。

【大小の視覺教育】——これにも種々の教具があるが「大段階」といふのは長さも幅も同じで、た

だ厚みだけの違ふ橋のやうなものが幾つもある、これを一番厚いのから順に並べると段階が出来上

る、兒童は混せ合してある中から何れが一番厚いかと探すので何時か知らず大小の感覺を養ふので

ある、尙これは橋は机の上にごちや／＼に混せて置き、段階を作るところは他の場所にとすると、一

つの橋を運んで行つた後、次ぎの橋を運ぶには前の橋の大きさを心の中に覚えてゐなければならな

いので一寸六ヶ敷くなるが、其の場で段階を作り得るやうになつて後には斯る練習をも行はしむる

のである。それから又「分銅嵌め」といふ教具がある、これは長方形の木材に十個の穴が列んで開

いて居て、これに相應する十個の分銅がある。分銅は同高異徑のもの、異高同徑のもの、異高異徑のものと斯う三種ある、これをそれ／＼穴へ嵌め込むのである。これは三人一組になつて遊び、自分のへすつかり分銅を嵌めて了ふと取り替合つて遊ぶのである。これも兒童に觸筋覺を働かさせて行はせるのである。子供は大變これを喜ぶ、一度實驗的に傍で唱歌を唱つて騒いでみたが分銅嵌めを遊んでゐた子供は心を亂さずに熱心にその遊びを續けてゐたさうである。この他「方塔」といふ教具もある、これは大きな異なる十個の正立方體があつて、これを大きいものを最下として塔の如く積み上げるのである。尙又「長段階」といふ十本の棒から成り立つて居る教具がある、この十本の棒は長いものから順次短いものに至るので、最も長いものが長さ一メートル、其の次が順次一メートルの十分の一づつ短く、即ち十分の九メートル、十分の八メートルといふ風にして、最後の最

も短いものが十分の一メートル、即ち一デシメートルの長さになつて居るのである。是等の棒は一デシメートル毎に青と赤とで色が塗り分けられて居る、これを短い方から順次長い方へ、又長い方から順次短い方へと重ねて並べる練習を行ふのである、十本の棒の端をキチンと揃へると順次棒の段階が出来、又各棒は一デシメートル毎に色が塗り分けられて居るから十本手際よく並べると色もチャンと揃ふやうになつて居る。これは視覺練習のみならず、簡單なる算術の教授にも利用せらるるのである。

【色彩の視覺教育】——長方形の大箱に八つの抽斗が附いて居る、この各の抽斗には赤、橙、青、黄、綠其他都合八種の色絲巻きが八個づゝ入つて居る、それで色は都合六十四通りあることになる。各色は濃淡の度に從つて八個あるので、この六十四個の絲巻きを色順、濃淡の順に從つて排列する練習を行ふ。

感覺教育に關してはこの他ビロウド、羅紗、金巾、サンド・ペイバー等を目をつぶつて觸り、これはすべくして居る、これはさらくして居ると判斷をする觸覺の練習もある。

感覺教育が一通り済むと次ぎは睿知教育に移るのである。茲で一寸御注意申して置くのは睿知といふ言葉の意義に就てである。これは英語のインテレクト (intellect) であつて、普通に思考作用を意味して居るのである、然るに**モンテソリーの用ゐて居る睿知といふ字は普通の意味とは違つて、判斷、概念、推理等を指して居るのである。**モンテソリーはこのことをその著書の何處でもことわつて居るのではないから、始めてモンテソリーの著書を読む人は解釋に苦しむのである。私はモンテソリーの著書を反復熟讀して、やうやくモンテソリー一流の睿知といふ字の意義を知つたのである。

モンテソリーは睿知教育の一部として名稱教育

を行ふて居る。モンテソリーは名稱教育に於てセガンの三段階に従つて居る。**セガンの三段階は次の如き形式に於て行はれる。**

一、感覺的知覺と名稱との聯絡

二、名稱に對する實物の認識

三、實物に對する名稱の記憶

英語のお分りになる方には具體的の形式をお教へすることが出来る、英語の方が分りがよいから一寸述べて置かう。

I This is red (これは赤です)

” ” blue. (これは青です)

II Give me red. (赤を下さい)

” ” blue. (青を下さい)

III What is this? (これは何ですか)

これを説明すると先づ第一段に於て、赤を示しつつ、「これは赤です」と教へる、即ち赤といふ感覺的知覺と赤といふ名稱とを聯絡させるのである次ぎに赤や青を散らして置いて「赤はどれですか」

といつて兒童にこれが赤だと指示させる。即ち赤といふ名稱を擧げて、これに對應する實物の赤を認識させるのである、それから最後に實物の赤を出して「これは何ですか」と質問して赤といふ名稱を思ひ出させる、即ち實物に對する名稱の記憶である。これだけの段階を経て始めて名稱を完全に覺えることが出来るのである。モンテソリーはこの第二段に於て「赤を下さい」と言つた時、子供が間違へて青を取つて寄越しても間違つてゐますとは言はずにその日はまだ覺える力が準備されて居ないのであるとして「ハイ有難う」と言つて莞爾として受取つて置くのである、而して又翌日新しく教へ直す、これは自由主義の現れであらうけれどもあまりに柔が過ぎるやうに私は思ふ、成程無理をせずに自然の發育を待つといふことには一理あるけれども、「赤を下さい」と言はれて間違つた青を出してもそのまゝ承認せられたならば子供は青を赤と思ひ違へて了ふやうなことが起らな

いとも限らない、子供が間違へて青を出したら「それが赤ですか」位の反問をした方がよろしいと私は思ふ、この邊も皆さんが宜しく手加減をなさる必要があると思ふ。

モンテソリーが睿知教育として擧げて居るものに簡單なる色を使用しての寫生がある。「兒童の家」で子供に色鉛筆で樹木を描かせた、すると子供は幹と枝とを赤で、葉を緑で描いた。そこで先生が「戸外へ行つてよく樹木を見ていらつしやい」と言つて觀察をさせた、子供は今度は幹を褐色にして、枝と葉とを綠色にした。もう一度よく見ていらつしやいと言つて觀察をさせて描かせて見ると今度は幹と枝とを褐色にして、葉だけを綠色にした、斯くの如くして兒童の觀察は訂正されるのである。それから又麻布や絹布やリネンや木綿に觸つてその名稱を言ひ得るやうな練習もするのである。

モンテソリーは仕事をすべて遊戲化するのであ

る。例へばフレーベルは長方形を教へるのに邊や角を教へたのであるがこれでは幾何學であつて、子供はチツとも面白がらない。モンテソリーは長方形を教へるには食卓準備の遊びをして教へる。先づ長方形の食卓を運び出して、長い方の邊には二人前、短い方の邊には一人前のお料理を並べさせる、これで二邊が他の二邊より長いことが分る、次ぎに眞中に花瓶を置きませうと言つて中心のあることを知らせる、四隅にナブキンを置きませうと言つて四つの角のあることを知らせる、と斯ういつた調子なのである。

モンテソリーは次いで読み、書き、算盤を教へるのである、これはモンテソリーの早熟教育と言つて批難せらるゝ點であるが、私はモンテソリーの方法に従つて教育する場合には決して早熟教育の誹を受くべきものでないことを信ずる。

モンテソリーの書き方教授は次の三段から成立つて居る。

用筆練習

書き方 文字の記憶

文字の組立

用筆練習としては先づ切り抜かれた色々の形——圓形や方形等を白紙に當てゝその縁を取る、次ぎにはこの縁取つて出來た圓形や方形の全面を丁寧に塗り潰す、最初の中は塗り方も不規則で時々輪廓の近くを塗り落したり、輪廓の外へハミ出したりするが漸々慣れて來ると上手に塗れるやうになる。これが凡ば出來上ると第二段の文字の記憶に移る。これには厚紙にイロハを凹字で現した字型を作つて置き、これを指頭で觸り、形を覚えさせるのである、慣れると目をつぶつて文字に觸れさせてもその字體が明かに分るやうになる。次ぎに先生は「これは何々である」とその發音を明確に教へ、視覺、觸覺、筋覺及び聽覺の聯絡を取るのである、子供は之を非常な興味を以て迎へ、自ら進んで練習をする。次ぎには先生の口唱するのを

聞いて、之に應ずる字型を拾ひ出させる。それから第三段となると是等の文字を綴り合せる。例へばトとケとイの三字を綴り合せる。子供はト、ケ、イと始めは別々に讀んで居るがそのうちにトケイ——は、あ時計だなど氣が附く、子供は無上に嬉しがる、而して直ぐペンを握り始める、前に字型をよく覚えて居るので正確に文字を書く。この始めて字が書けたときの喜びは非常なものである、紙をくれ、紙をくれとせがむ、而していろ／＼な文字を書く、紙がなければ何處へでも書く、パンの塊の上にまで書いた子供もあつた。「兒童の家」の壁には小さい塗板が四方に取附けてあるので、子供は盛んにその上に文字を書くのである。モンテソリーの方法是子供が何うしても書かなければならぬやうに準備させて置いて自分から書くやうにさせるのである、モンテソリーはこれを自發的書き方の法と言つて居る。イタールやセガンは書き方の練習をさせるに當つて文字の分解にのみ努

めたのであるがモンテソリーは文字を書く主體、即ち書く人の動作を分解したのである、これは誠に卓見であつて、モンテソリーはこれを又人類學的書き方の法とも唱へて居るのである。

次ぎに讀み方の遊戲であるがモンテソリーはこれを左の二通りに分けて居る。

讀み方の遊戲

物名の讀み方遊戲
句の讀み方遊戲

前に述べた書き方の教育の内に既に讀み方の教育が行はれて居る。先づ物名の讀み方遊戲であるがこれは句とはいふものゝ實は立派な文章である紙片に「マド ヲ オシメ ナサイ」「マド ヲ アケテ ソレカラ オシメ ナサイ」「コノ クミノ ナカ カラ テニシニ ダケ エラビ ダシテ アナタ ノ スキナ ウタ ヲ ウタハセ アナタ モ イツシヨ ニ オウタヒ ナサイ」などとして書いてこれを子供に渡す、而して「皆さん、今あげた紙に書いてあることが分りましたか……」

それでは太郎さんから始めて下さい」といふ。太郎は紙片に書いてある文章通りの行爲を行ふ、これも子供は非常な興味を以て行ふのである、皆「誰さんは何をするのだらう」と期待しながらその行爲を熱心に見守つて居る、聴がて自分の番となると得意になつて自分の了解した意味通りの行爲を行ふ、この間先生はたい傍に立つて、黙つて見て居るのである。

それから算盤即ち算術の教授であるが、これも初めは主として實物を使用して「あなたの前掛にはボタンがいくつあるか」といふやうなことから始めて行く。尙視覚教育の際使用した「長段階」を使用して二十以下の數の加減乗除を教へるのである、即ち十に五を加へるといふ時には一メートルの棒（前に言つた如く一デシメートル毎に色の塗り分けがあるから十に區分せられて居る）に五デシメートルの棒を繼ぎ足させて、一區分づつ勘定させれば十五といふ數を得る、又十から五を引

くといふ場合には一メートルの棒に並べて五デシメートルの棒を置き、あと幾デシメートルの棒を持つて來れば隣りの一メートルの棒と同じ長さになるかと計算させる、かくて後十から五引く五残るの事實を子供に覚えさせるのである。又一メートルの棒を二デシメートルの棒で計つて行き、十から二が幾度取れるか、即ち十を二で除すといくらになるかといふ計算をさせるのである、而してこれと同時に二が五つ集ると十になるといふ事實も何時の間にか覚えられて了ふのである。

訓育

モンテソリーの訓育に於ては、(イ)獨立、(ロ)從順の二つが重大視されて居る、次ぎにその各に關する説明を述べて行かう。

(イ)獨立

モンテソリーはこの獨立を非常に大切な徳として居る。これは矢張自由主義と關聯して居ること

であつて、獨立の出来ない人間には自由は無いのである、赤ン坊は自から食物を選択することが出来ない、故に自由を有して居ない、離乳期になつて稍々自由を有するに至る、併し未だ言語によつて自己の意志を發表する能はず、歩行して自由に自己の位置を變ずることが出来ないから未だく奴隸狀態に居るものと言はなければならぬ、すべて他人に依つて存するものには自由がないのである、自分の思ふ通りに出来る人が眞に自由を有する人である。そこで眞の自由を有するためには獨立した人とならなければならぬ、モンテソリーはこの理由から獨立といふことを力説して居るのである。兒童に獨立心を起させるためには下女使用は禁物である、私は自身の經驗に徴してこのことを斷言し得るのである、私のところでは質樸な下女を雇ひたいと思つて旅費を出して郷里からわざわざ一人の下女を呼び寄せたのであるがこの下女が不都合を働いたので、暇を遣して以來下女とい

ふものを使つたことがない、ところが子供の教育のためには非常に好結果を現して來た、私のところの九才の女の子などは自から髪も結ふ、袴も穿く、靴も磨く、時によると私の靴まで磨いてくれる、なるだけ他人の世話にならないやうにして自分で出来ることは自分でしやうとして居るのである。尤も下女を置くといふことにも辯護は出来る。世の中は分業であつて、一家の内には會計、育兒、客の待遇等主婦でなければ辨じない仕事もあれば下女下男で十分間に合ふ仕事もある、そこで忙しくて手の廻らぬ家庭では下女下男を置くことは一向差支がない、併し安逸を貪らんがために下女下男を雇ふとならばそれは甚だよろしくない、況んや大切な子女の世話までを下女任せにして置くなどといふことは言語同斷である。話が思はず横道へ行きかけたがモンテソリーは斯くの如き理由からして兒童に獨立心を養はしめんと努めて居るのである。「兒童の家」では子供は食事の場合自から

給仕することは勿論、三才から六七才までの子供に毎日掃除を課して居る、一方だけ釘付けにしてある固定机を横倒しにして床の上を掃いたり机の上の塵埃を拭うたりさせるのである。

(ロ) 從順

次ぎには從順である、モンテソリーは例の如く分解法に依つてこの從順をも次の如く分解して居る。

從順 消極的——自制 積極的——活動力大

モンテソリーの「兒童の家」は自由主義で支配されて居るので子供は各自思ひ／＼のことをして遊んで居る。繪を描く者もある、恩物をもてあそんで居る者もある、ボタン嵌めをして指先練習を行つて居る者もある、戸外を馳け廻つて居る者もある、皆熱心に思ひ／＼のことをして遊んで居る。こゝへ若しお客様が何か来て子供の唱歌が聞きたいなどと望めば先生は「皆さん、一寸お止めな

さい、お客様が皆さんの唱歌を聞きたいと仰有いますから一つ唱つて上げませう」と言ふ、するとどの子供も皆一齊に遊びを止めて了ふ、これが却々出来ないことである、日本などでも小學校で兒童に筆を置いてなぞといつても却々一齊に置くなぞといふことは出来ないものである。しかしこれが出来なければ自由でない、**お止めなさいと言はれた時自制（消極的從順）の力によつて容易く止めること**の出来るのは自由を有して居るからである中途でお止めなさいと言はれて止められないのは無理もないことで人間には完成欲といふものがある、やりかけた仕事は終までやつて了はないと氣が済まないものである、しかしそこを訓練して自制力を得るやうにしなければならぬのである、モンテソリーは自制を養ふ方法として次の如きことを行ふのである、モンテソリーは子供に對つて**零度お辭儀をなさい**といふ、子供はうつかりお辭儀をする、モンテソリーは零といふのは何もないこ

とです、零度お辭儀をするといふことはお辭儀をしないこととですと教へる、それから又零度お辭儀をなさいといふ、子供は相變らずお辭儀をする、又零度の説明をされる、何遍もこれを繰返して居る内にヒヨイとお辭儀をしかゝつても途中で止めるやうになる。終ひには零度お辭儀をなさいと言はれても平氣で居る、斯くて自制が養はれて行くのである。

又水の満ちた鉢を運ぶことなぞも自制力を養ふ一法としてモンテソリーの採用して居る所である、それから一つ「靜肅遊戲」といふのがある、これは窓を閉ぢて室内を少し暗くして置き、一同靜かにして居る、チツとも音を立てない、呼吸さへも大きくはしない、而して先生の合圖で靜かに立つたり、腰掛けたりする。又先生が隣りの室へ行つて一人づゝ小さな聲で呼ぶ、呼ばれた子供は靜かに立つて、足音を立てないやうにして隣りの先生の居る室へ行く、これも自制力の訓練には大

變効果がある、モンテソリーは元來賞罰全廢論者であるがこの遊戲だけは例外としなければなるまいと思つた、然るに實際に行つてみたところ、豫想に大違ひ、子供は大變よろこんでこの靜肅遊戲を行つたといふことである。

茲で一寸申上げて置くがモンテソリーの教育説は形式陶冶の原理から見ても太した効果のあるものではないのである、子供が圓形や方形の形をハツキリと覺えたからとて太した効能のないことは勿論である、私が過日大阪へ行つた時彼地の保母の一人が私に向つて「モンテソリーの教育法はものになりまへん」と言つた。全く或る一面から見れば「ものになりまへん」のである。この形式陶冶の原理に就てお話すると長くなるから何も申上げぬことにするが兎も角形式陶冶の原理から見ればモンテソリーも太したことはないのである。

それから從順を養ふには一方積極的に活動力を大にする必要がある、骨惜みをせず身體を駒の

やうに働かせなくてはならぬ。最もこの活動も無暗に行うたのでは効果が尠い、先生が傍から助けて秩序立てゝ行はせなければならぬ、又子供の趣味に適つた活動を選ぶことは勿論である。

活動は成るべく反復するがよい、私のところの子供は膝の上のせてボンと軽く下ろしてやると喜んで何遍もやつてくれといふ、私は何遍でも子供の望むだけやつてやる、しかし大抵六七遍もやれば止めて了ふ。子供は反復を望む一方非常に移り氣なところがある、この矛盾には意味があり、十分なる教育的價值があるのである。それは子供は種々なる方面に智識を弘める必要があるので移り氣が存し、同時に或る智識は深めて行く必要があるので反復が存するのである、私は斯く解釋してこの矛盾を非常に大切なものと考へて居る。

大人が子供の活動を助ける時決して氣短かであつてはならない。「兒童の家」では交代で晝の食卓の準備をすることになつて居る、モンテソリーは

子供の活動の緩慢なことをよく知つて居るから當番になつて居る五六人の子供に早く十時半頃から晝飯を食べさせて了ひ、ゆつくりと食卓の準備をさせるのである。

體 育

モンテソリーは體育を次の如くに分解して居る

體育 機械體操

自由體操 自由遊戲
徒手體操

教育的體操 指頭練習
園 藝

自由體操は遊戲機械を澤山に備付けて置いて自由によつて體操を行はしむるのである、又何も道具は使はずに自由に體操せしむることもある、これは駭け足が主になつて居る。次ぎは機械體操であるがこれは人類學的に考察した結果、兒童の足をよく發育させることがその主な目的となつて居る、我々は腰の上下の長さが凡ば等しいの

であるが赤ン坊は胴の長さが六十八パーセント、足の長さが三十六パーセントである、赤ン坊がこの割合を變へずに成長して丁ふと足の短い家鴨みたいな人間が出来上つて了ふ、そこで足の發育を愈々完全ならしむるためにこの機械體操を行ふのである。教育的體操の指頭練習はボタン嵌めによつて之を行ふのである、園藝に就ては別に説明を要せぬことと思ふ。

結 論

自由主義と兒童觀察

自由主義のことに就ては私がフレーベル會の例會で講演した「自由主義の誤解」と題する筆記が「婦人と子ども」(七月號)に掲載されて居るから就て御覽下されたい、たゞモンテソリーの自由主義の主目的は兒童の活動力を旺盛ならしむるにあるといふこと及びその副次目的は兒童を觀察するためであることを申上げて置く、この兒童觀察とい

ふことはモンテソリーの方で非常に大切なことになつて居るのであるが、或人は「それでは子供をお草紙に使ふやうなものである」といふ、これは一應最な話である、しかし本當に兒童を教育するためには兒童をよく知つて居なくてはならぬ。故に兒童を知る爲めに之を觀察することは一向差支ないことである、お草紙にするとはいへ、他事あつて之を行ふのでなく、兒童を愛するため、自由ならしむるため、眞の教育を與ふるため、之を行ふのであるからお草紙にしてもいいのである。

時間が尠いので急いてお話した爲めに定めし言ひ残しが多からうと信ずるが今日の講演はこれで一先づ切り上げて置く。(終)

(文部省保育講習科會外講演大意、文責在記者)

お月様

K T 生

お月様はお座敷の時計のやうに圓い顔、

お庭の壁のその上にうづくまつてる泥棒や

街や畑や港口、それらの上を照します、

小枝の茂みに眠つてる鳥の上をも照します。

ニヤア／＼ニヤア／＼ニヤア猫さん、

チュウ／＼チュウ／＼チュウ鼠さん、

お家の前の戸の傍でワン／＼吠えるワン／＼さ

ん、

晝間は寢床でグウ／＼と鼾かいてる蝙蝠さん、

是等の連中は月明りあかるいおもてが大好き。

けれども晝間起きてゐておめ／＼を覺まして
居るものは

お月様に知らん顔、まあくなつて寢て了ふ。

花はおめ／＼をつぶります、子供もおめ／＼を

つぶります、

あしたになつてお日様がおめ／＼覺まして

のぼるまで。(スチブンソン)

餘所の國

さくらの幹によちのぼり

木登り出來るは坊ばかり。

兩手で幹をかゝへつゝ、

眺め見渡す餘所の國。

花の澤山咲いて居る

となりの庭がすぐそこに、

これまで見掛けたことのない

たのしい場所も目に入る。

空の青さをてりかへし

ゑくぼをよせて川が行く。

上り下りのほこりみち

人が町へと歩いてる。

木さへ高けりや何處までも

舟の浮んだ海ばらに

育つた川が流れ込む、

そんなとこまで見える筈。

どの道行つてもお伽國。

五時に御馳走が食べられて、

おもちゃが生きてるお伽國、

そんなとこまで見える筈。(スチブンソン)

幼年唱歌に就て

葛 原 幽

私には、幼年唱歌についてお話をして皆さんの御参考に供する様な意見も経験もないのでありますが、折角のお望みですから、私が、音楽方面の先輩の指導によつて四五年来、幼年唱歌を作つてをりますから、全くの未成品ですけれども、其の試作前後の所感の一端でも申し上げます。本當ならもう四五年后、私の幼年向の唱歌の数がせめて三四百にもなりましたならば、何か、歸納的にも一つの意見を確立し得るでせうと思つてゐます。

私の此の雑話、漫語が面白く無ければ、是は私の罪でなくて、私の話を求めしめられた方々が悪い事にして下さいまし。さうでない、私には此んな不用意なお話を發表する勇氣は無いのです。さて、今日我國に行はれて居る幼年唱歌の大部分は基

督教會若しくは小學校によつて、その曲や歌詞を提供されて居ります。教會の唱歌は我が國民性を顧慮せず、外國の曲に強いて日本語の歌詞を假着させてあるのでありますから教會に於ける特殊の役目に充て用ゐらるゝ以外、一般の國民に唱はるべき唱歌となり得る資格を具備するものとは申されません。

學校の唱歌の方には明治十七年に完成した文部省の「小學唱歌集」が三冊あります。これには日本の音律に適したいゝ曲が澤山集められてありますが、歌詞が六ヶ敷いのであります。いゝには違ひありませんが幼年者に唱はせるものとしては歌詞に難解の憾みがあります。別に餘程研究して發表された「幼稚園唱歌」がありますがこれは亦歌曲が

甚だ少數ですから幼稚園の實際向きでありません。その後といへども文部省検定済で行はれた唱歌は

大抵外國の曲

に日本の歌を

附けたものでありまして、何うも日本の子供がその年齢に相應した思想なり感情なりを、その年齢に相應した表現法を以て唱ふところの唱歌といふものは少いのであります。たゞ田村氏編輯の者にいゝのがあつたと思ひますが今日から見れば飛行機とか活動寫真とかいふやうなものが題材として取入れてありませんので、しつくり時代に合つて居るものとは申されないかと考へます。

「戦友」(こゝは御國を何百里)やカチューシャの小唄があればど盛んに唱はれたといふことは大いに考へてみるべき問題であります。「四百餘州」や「雪の進軍」も、永井前樂長のお作と承つて居ます。が随分唱はれたものでした。「戦友」は軍人向きで

ない、即ち志氣を沮喪せしむる虞れがあるといふので軍隊では近頃禁せられて居ると聞きました。

カチューシャも盛んに唱はれましたが識者からは卑俗であるとして擧げられて居ります。そこへ行くと流石は「四百餘州」や「雪の進軍」は上品であります。

扱て以上の流行した唱歌を考へてみますに、

日本人は複音

をあまり考へ

てゐないやうであります。即ちハーモニーを解してゐないやうであります。日本人を喜ばして居るのはメロディだけであるやうであります。一面から見れば唱歌に對する日本人の教養が未だその域に達して居ないからであるとも見らるゝのであります。コーラスに泣き得るのには聴者の耳が十分に準備せられて居なければならぬのであります。それと同じく、ある考へ方からいつて見ますと日本人には何うも長く引いて唱ふものゝ方が喜

はれるやうであります。「雪の進軍」にしても、「戦友」にしても、カチューシャにしても皆長く引いて唱ふやうに出来て居ります。然るに教會の讚美歌や小學唱歌には軽い調子のものが多く、一般に靜かに唱ふやうに出来て居ります。乃で子供は學校の教室では唱つても校外へ出るともう唱はないのであります。

以上申上げたことを簡單に約めてみますと

今日の日本の

子供が喜んで

自から唱ふことの出来る唱歌——それが非教育的であつてはならぬのは申すまでもありません——は實に尠い、否殆んど無いと言つてもよい位なのであります。

それなら早速作つたらばよからうと仰有る方があるかも知れませんがこれが又却々さう容易く行はれない仕事なのであります。容易く行ひ得るならば、文部省が音楽取調掛を設置したのは明治十

二年でありますから、もう今年までには随分長い年月も経つて居り、相當な作曲者や作歌者が時代々々に出て居なければならぬ筈であります。ところがそれがさう行つてゐないのには理由があるのであります。

それは我國の作曲者といへば大抵音楽學校出身の人で、その多くは外國の曲にばかり親しんで來て居る人々でありますから、その人の天分や頭の向け方に依らなければ斯ういふ唱歌は出来ないのであります。併し困難であるとはかりで指を染める人がなければ何時まで経つても出来るわけはないのでありますから誰かゝ始めなければなりません。尤も今までにこの方面に着手してかなりな成功を收め得た人がないではありません。中でも

吉丸一昌氏の

幼年唱歌集の

如きには、すい分優れていゝのがあります。幼年唱歌集は後に新作唱歌集と改名されましたが子供

向きの唱歌が澤山集めてありました。尤も中頃からチヨイ／＼外國の曲に歌を附けたものなどをも發表なさいましたが大體に於て日本の國民性を土臺に置いた歌なり曲なりでありました。しかし惜しいことに氏は早世せられて了ひました。それ以來氏の遺志を繼ぐ者は未だ現れて來ないのであります。私も吉丸氏には種々伺つて教へて戴きたいと思つてゐたのでありますが、その暇無き内に氏は早くもこの世を去られて了つたのであります。

吉丸氏の唱歌は音樂界にも評判になりました氏の作には上品な軽い滑稽が多くありました。一體子供は滑稽に富むものであるらしく、私共の四才になる女の子なども自分で蓄音機のレコードを選び出し、滑稽な顔付をして踊つたりなぞしますが吉丸氏ので發表せられなかつたのに對話唱歌といふのがあります。その中の「太鼓」なども極く、軽い滑稽を唱つたもので子供が太鼓を欲しいと言ひ

ますと父親が『太鼓を叩くと矢筈しくつて眠れない』と言ふ。すると子供が『それではお父さんが眠つて了つてから叩くから買つて下さい、』といふのであります。

この「對話唱歌」は盡力する人があつて遠からず世に現はれる事と思ひます。歌詞は吉丸氏から數人の作曲家の手へ移つて作曲中であつたのでありますから。さて、それにしても、いつも、

やさしい様で

六かしいのは

兒童向の仕事を大人がする事です。私は以前から随分子供向きの唱歌を作つて見ました。既に新唱歌集十二冊を發表して置きました。私はこの唱歌集の表紙の裏へも、今申上げたやうなことを簡單に書いて置きました。それを一寸讀んで見ませう。

日本のコドモの先生方や、父兄母姉の方々へ

日本のコドモにうたばせたい歌、日本のコドモの氣分にしくりあふメロデー、それを試みたくて豫て親しい樂友諸君に

謀り、二三年來「小學生」「幼年世界」「少年世界」などで發表したものを、集めて見ました。皆、コドモの爲に作つた歌、その歌の爲に特に出来た曲です。

どれも、これも、皆、日本の歌であり又、日本の曲であります。四五十年來、日本にある多くの歌曲は、殆んど古來の外國人の曲に日本語の歌をつけて見たものであります。私も多年その方の歌も試みてゐますが、この集では、昔から有る外國人の曲に、後から日本の歌をつける事は、絶対にせぬ積です。あくまで日本の歌、日本の曲として、いさゝかでも次の時代の國民の中から眞の「日本の音楽」を産み出す爲の棄石ともなるならば、何んなに悦ばしい事でせう。

どうぞ、充分に御批評を願ひます。

新唱歌集以後私は樂友小松耕輔、梁田貞の二君と相謀つて「大正幼年唱歌」といふ幼年唱歌集を發表しつゝあります。一體極論すれば、

私の歌の作曲

者は私をよく

理解して居る人でなければなりません。私の歌は私を理解して居る作曲者によつて始めて十分に唱ひ得るやうに作曲される筈であります。それ故私は私をよく理解して居る二人の樂友と相結んだの

であります。

「大正幼年唱歌」は最初、春夏秋冬に對してそれ／＼一冊宛都合四冊作る豫定でありましたが四冊だけではとても十分に幼年者の世界を唱ふことの出来ないことに氣が附きましたので、十冊作らうといふことになりました。一冊には十づゝ歌が集めてありますから全體では百になるわけであります。尤もこの唱歌集の出版を受負つてくれる目黒書店でもかなり義侠的に盡してくれまして、澤山お作りなさい、さうしたら多くの中から後は後に残るやうなもの出来ませうと言つてくれますので私達もそのつもりで始めました。今第五集まで出来て居ります。

この幼年唱歌は私達三人の協同事業でありまして

三人とも非常

な熱心と興味

とを以て従事して居るのであります。歌は皆私が

作るのでありますが句の長さ、用語の選擇に人知れぬ苦勞をして居ります。出來上ると三人集つて

相談するのであります。これに着手したのは去年の三月からであります。爾後毎週月曜日の夜に一逼つゝ必ず集合することに決めてあります。初めはこの集ることがかなり億劫でイヤでありましたが今では反つて樂しみになりました。その内に自分達同志ばかり試みて居ても仕方がない。誰かこの方面の人にも聞いて戴いて悪いところを直したいと思ひ、丁度去年の六月十二日でした、フレール會の例會がお茶の水の女子高等師範學校の講堂で開かれた日に私達が伺ひまして、吉田熊次先生の御講演が濟んだ後、演奏して會員の方々に

幼年唱歌の歌

と曲とに就て

御批評を願ひました。而して私達はこの時會員の方々から種々参考になるお言葉を頂戴したことを今だに嬉しく思つて居ります。

「大正幼年唱歌」第一集に「蝶と春風」といふのがあります。

一、ヒラヒラ舞ふよ、蝶々が舞ふよ。

蝶々が舞へば、菜の花うごく。

うごくは、花よ。

とまれよ、蝶々。靜かに止まれ。

お花に止まれ。

二、ソヨソヨ吹くよ、春風吹くよ。

春風吹けば、菜の花うごく。

春風吹くな、

お花を吹くな。蝶々の翅も吹くなよ風よ。

吹くなよ風よ。

右の歌の中に「菜の花うごく」といふ句がありますが、私は最初「菜の花ゆらぐ」としたのであります。ゆらぐの方がうごくより唱ひよくもあり、菜の花のゆらぐする様が目に見えるやうですから、實際に子供がゆらぐといふ言葉を使はないことを知つてゐながらも、知らなければ覺えさせる爲めとしてもいゝではないかといふやうな丁簡でゆらぐとして置いたのであります。しかしこの時皆さんがうごくの方がいゝと仰有いましたので自

己固執の愚を避けて、皆さんのお説に従ひ、「菜の花うごく」と訂正したのであります。

それから第二集に「かへる」といふのがありません。

かへる

一、一つ飛んでは両手をついて、

何か考へ考へながら、

蛙、何處まで歸つて行くか。

蛙、歸つて何して遊ぶ。

二、池へ歸つて游いで遊ぶ、

池は私の生れたところ、

池の友達、游が上手、

池へ歸つて皆と遊ぶ。

これも最初第二番の歌は蛙が考へながら歸つて行くけれども自分のお池が見附らないといふやうな意味の歌でしたが、ある保母の方から

「何といふ情け

ない蛙でせう、

开廢なさない歌を子供に唱はせたくありません」と申されましたので、成程と思ひ、第二番の

歌は全部、歌の意味を作り替へて今のやうなものとしたのであります。

それから同じ第二集に「シャボン玉」といふのがあります。

シャボン玉

一、ふくれる／＼シャボン玉、

フウ／＼吹けばクル／＼と、

まはつて膨れる管の先、

あんまり膨れて破れるな。

二、あがるよ／＼シャボン玉、

フワ／＼揺れてキラ／＼と、

ひかつて上るよ、空高く。

あんまり上つて、破れるな。

これは取材の方面から見て子供がシャボン水を吸ひ込むと呼吸器を痛める憂ひがあるし、衣物に汚點を拵へたりしていけませんからさういふ歌は唱はせたくありませんと或る奥様が仰有いました私は「シャボン水を吸ひ込むといふ方面から見ればいけません、實際に於て子供がシャボン水を吸ひ込むやうな場合が多くあるでありますか。

それよりもフウツと吹く爲めに肺臓を強めるといふ積極的方面からその効果を認めてやる方がよくはないでせうか。又衣物が汚れることを御心配のやうですが子供には

衣物を汚す位

の元氣が必要

ではないでせうか。水遊びにせよ、砂遊びにせよ、子供は皆衣物を汚しますが、これは子供の元氣の現れであつて寧ろ喜ぶべきことではないでせうか」と申しました。保姆の方々も「それはかまはないでせう」と仰有いましたので、この歌曲は入れて置くことに致しました。

それから第一集に「ピアノ」といふのがありません。

ボン、ボン、ボン、ボン、ボン、ボン。

ピアノが、ボン、ボン、ボン、ボン。

手をたいて歌へ。

こゑたかく歌へ。

勇しく鳴れよ。

面白く鳴れよ。

ボン、ボン、ボン、ボン、ボン、ボン、

ピアノが、ボン、ボン、ボン、ボン。

これは曲に就てのお話であります、この曲を聞いて、或る外國人がピアノはもつと元氣のいゝものである、开磨弱々しい調子のものではないと言ひました。ピアノも「魔王曲」の如き随分調子の強い曲が多いことは承知して居ります。けれどもそれは皆大人向きの曲であります。子供の爲めの作曲が必ずしも「魔王曲」の如き調子の者ではなくともよろしからうと思ひます。それでこれも原曲のまゝにしてあります。尙このピアノは梁田君が曲を先に拵へて、後から私が歌を拵へたのであります。倉橋先生も

曲を先に作つ

て後から歌を

作ることも試みたらば何うかと仰有つたことがあります、この「ピアノ」はそれなのであります。

此外にも作曲を先にして作歌を後にしたのが幾つ

六月の例會に引續いて、去年の八月開催せられました全國幼稚園關係者大會の時にも、女子高等師範學校へ伺ひ、雨天體操場で試奏してみました。而して種々御注意やら、稱讃のお言葉やらを頂戴して大いに勇氣づけられました。

只今まで一ヶ年かゝつて五集を發表することが出来ました。第六集は目下印刷中であります。残るところは四集であります。私達は最初澤山作つたら、その内には残るやうなのが出来るかも知れないといふやうな調子でやつてゐたのですが今では慾が出まして、やるなら皆いゝものにしたいといふやうになり、

自重していい

ものを發表し

たいと考へるやうになりました。

作歌に就ての人知れぬ苦心と申しますが、苦心は何の事業にも伴ふことでありましてお話するも

如何ですが、先づ一番困るのはアクセントであります。日本語には標準アクセントといふものがあります。りませんから何れが正しいとも言ひ兼ねます。日本本の何の國語字典にもアクセントを明瞭に示したものはないのであります。そこで止むなくアクセントに就て成るべく問題を惹き起さないやうな言葉を選ぶ必要があるのであります。これが又却々面倒なことであります。「シャボン玉」を例に取れば、まはつてとひかつてに於て、はとかとにアクセントがあり、くだとそらに於て、くととそにアクセントがあるのであります。斯ういふやうに

アクセントを

合せることは

却々困難であります。アクセントの統一といふことは將來問題となるべきことでありませう。例へば雲と蜘蛛の區別は國々によつてあるところもあり、無いところもあります。而してその違ひ方もいろいろであります。只今では標準アクセントが

ありませんから何れが正しいとも申されません。

乃で成る丈け多く用ゐられて居るアクセントに據る他はないのでありますが各人が自分のアクセントを根據として居りますので、何のアクセントが廣く用ゐらるゝかをさへ知るのも容易なことではありません。

私は又擬聲オノマトペを唱歌の中に取り入れることを

心掛けて居ります。今までも「ひよこ」や「お馬」等の内には擬聲が用ゐてありますが將來も擬聲を巧みに利用したいと思つて居ります。しかし佛の顔も三度とか、さう澤山は用ゐません。

ひよこ

一、ひよこ、ひよこ、ビヨビヨないて、

親のまはりで、よろこびながら、

餌を拾ふ、餌を拾ふ。

二、ひよこ、ひよこ、ひよこが一羽、

垣根の外で、迷ひ子になつて、

ビヨビヨ、ビヨビヨ。

お馬

お馬センロン

バカバカ跳べよ。

山でも坂でも一とびに。

とびこえ、とびこえ、

勢こめて、

進めよ、進めよ、日本のお馬。

去年の全國幼稚園關係者大會の時「幼稚園では

三大節に唱ふ

やさしい歌が

なくつて困る」といふお話がありましたので、特に早く「天長節」「一月一日」「紀元節」の三つを作りました。ずる分苦作ですが――。

天長節

一、今日は芽出度い天長節よ。

何うしてお祝ひいたしませうか。

皆で大きなお聲をそろへ、

萬歳となへてお祝ひしませう。

天皇陛下萬々歳。

二、今日の芽出度い天長節に、

皆で、しつかり約束しませう。

今に大きな大人になつて、

忠義を盡す約束しませう。

天皇陛下萬々歳。

序でに茲で讀者諸君にお願ひして置いて戴きたいのは何ういふ歌を作つてくれと註文して戴きたいこととあります。これは是非お氣が附かれ次第私のところまで御希望なり、御要求なりをお申越し下さることを願つて置きます。(これは記者からも皆さんにお願ひして置きます。葛原氏の御住所は東京市外大久保百人町二三九です)それから倉橋先生からも謂はれた事で

私は私の歌にソフトネスとかなだらかさとかいふやうなものを缺いては居ないかと心配して居ります。理窟に流れ易いのを恐れて居ります。種々苦心して仲間内であゝでもない斯うでもないといさゝ直して發表するので、つまり私としては最善を盡して居るのですから、今申したやうな缺點があるとしたならば、これは、自分の天分の薄い結果でありまして深く哀しむ外はないのであります。

最近に私が一番苦心したのはお伽話の唱歌であります。これは大抵先輩のお作が一つや二つは必

ずあるのであります。乃で私は今までのやうに物語體に作るのを避けて、ある場面を取つてこれをドラマチカーに作つたのであります。題の附け方も「桃太郎」と言ひますと子供が「桃から生れた桃太郎」の方を唱ひ出しますので、わざと「鬼が島」といふやうに附けて居ります。子供は一體物をバースニファイして喜ぶものであります。それ故、一方先輩のと趣向を違へるためといふ理由もあるのであります。

お伽話はすべて演劇的に唱

ふことにいたしました。今出来て居るのには「鬼が島」と「木舟土舟」とがあります。

木舟土舟

兎の舟は木の舟で

前の方へと勇んで進む。

狸の舟は泥舟で

とろり／＼と見る／＼とける。

すると兎は突つ立ち上り

持った權をば打ち振り上げて
『思ひ知つたか、狸どの。』

そこで狸は權をばすてい、
をろく聲に手を合せ

『命ばかりは、兎さま。』

この「木舟土舟は」礪川小學校に居る私の友人が
振りを附けて生徒に唱ひ且つ演せしめて居るさう
であります。東洋幼稚園の岸邊先生も私達の唱歌
に振りを附けられたさうであります。

「お船」はナシヨナル卷一にある「ジャックの船」
から思ひ附いたのでありますが、これも日本をニ
ホンとすべきかニツボンとすべきかに就て餘程迷
つた末、兎も角唱ひいゝやうにニホンとして置き
ました。

お 船

お池に浮べた帆かけ船、

帆は眞白で、帆はしらに、

日本の旗が、ヒイラヒラ。

日本の旗は、日の丸よ。

水にうつつて、

キイラキラ。

話がいろ／＼に飛びますが第一集の「さくら」の
内に「野山のこらす花の雲」といふ句があります。

これは「野山一面花の雲」としたかつたのであり
ますが、先輩のにさうありますのでそれを避けて
「野山のこらす花の雲」としたのであります。

私は唱歌を作るのにたい

面白さの外に

サムシングを

欲して居るのであります。しかしその點で何うも
ソフトネスを缺くやうであります。自然界は一般
に作歌し易くあります。私は自然界を唱つた歌に
於ては努めて理科の智識、六ヶ敷く言へば科學的
智識を不知不識の間に鼓吹したいと思つて居ます
一番作り難いのは「ストオヴ」とか「お辨當」とか
言ふやうな器具類を歌ふことであります。尙材料
に關して言ひますならば將來は滑稽趣味を入れた
いと思つて居ります。「お月様」や「お星様」の歌が
あつて「お日様」の歌がないと大阪の方から御注意

ありましたから「お日様」の歌も作るつもりです。

「汽車」や「電車」は作りましたが「自働車」はまだ作りませんのでこれも一つ作つてみたいと思つて居ります。その他、「お客様」といふやうな題の歌も作つてみたいと思ひます。これは實は既に一度拵へたのでありますが作曲家の方から

這麼歌に曲は

附けられない

と刎ねつけられて了つたのであります。當人少々悲觀の體でありますが目下改作中であります。

大正幼年唱歌が第十集まで出来上りましたらば今度は先生が子供に唱つて聞かせる歌を作つてみようと思ひます。これは當然作らるべくして今まで作られなかつたのであります。倉橋先生もこの必要を認めていらつしやいます。それですから私達は是非これを作らうと思つて居ります。それから外國の子供の曲にいゝのが澤山ありますからその中から日本の子供に適するものを選んで一冊作

りたいと思つて居ります。これは兩者とも各十曲づゝ集める豫定であります。それ故全部十二冊、百二十曲で私達の此の事業は一先づ段落をつけておく積であります。

それから最後に私から皆さんにお願ひして置きますのは前にも申し上げましたやうに題目の御註文をお申越し下さることゝ、もう一つ「大正幼年唱歌」をお唱ひ下すつて種々お直し下されたいこととであります。これは全國の有志の方々にやつて戴くと非常に參考になるであらうと思ひます。

それからもう一つ、これは全然自分達の唱歌を離れての希望でありますが、

皆さんが各地

方向きの唱歌

を作つて子供に唱はせて戴きたいといふことであります。これは相當の經驗を積まれた方々は是非試みられんことを切望して歇まないものであります而してお互ひに眞面目に批評し合ひ、日本の子供の爲めに益々いゝ唱歌を澤山提供したいものであります。（文責在記者）

りよ上卓

圖書

教育史研究の價值

東京帝國大學文科
大學教授文學博士

吉 田 熊 次

教育は人を陶冶するものであり、人の根本は精神にある、故に精神を動かさない教育はその目的を遂げ得ないのである。而して精神を動かすには精神を以てしなければならぬのである。従つて教育者は精神の修養をしなければならぬ。それには種々なる方法があるけれども教育史の研究も亦其の一手段として必要缺くべからざるものである。即ち過去に於ける教育者の傳記、事業等によつて自ら教育

的興味を起して始めて教育的情操を有ち、教育家としての精神修養を全うし得るのである。それ故に實際教育者が教育史を研究することによつて、教育の方法上にまでの細かな參考資料を得なくともそれを不必要とすべきではない。教育史の研究の意義は、それ以外、それ以上にあるのである。即ち偉大なる教育者としての根本修養に資するといふ點に大なる價值があるのである。

次に教育そのもの、性質を理解する上に必要なことである。教育といふ事柄は今日に始まつたものではない、これは人類發生の當時より既にあつたので、人類の發達と共に發達して來て如何なる時代にも教育といふ事實は存在し來つたのである。それ故に教育の社會に於ける、職能を明にするには、これを理論によつて論證する外に、過去の事實に基づいて講究することが必要なのである。之を任務とするのは即ち教育史であるから、教育史の研究は事實に基づいて教育の性質を明にするに必要なである。此のことは、今日の教育者には特に必要な事であるといふ

ことが出来ると思ふ。それは何故かといふと、教育といふことは、如何なる社會にもあつたことで、教育の職能は常に社會全般に關係してゐるものである。

然るに今日教育といへば、單に學校教育を意味し、また學校教育といへば限られた専門的仕事となつてゐるから、一方に於ては専門的研究を微細ならしめた所があると同時に、他方に於ては教育本來の任務を忘れしめるやうな傾きがないでもない。換言すれば、教育といふことは一定の校舎に於て、或一定の型に倣つた仕事をすればそれで善いものであるかの如く考へしめる弊が生じ易い。かゝる偏狹な

見解は是非これを打破して、教育本來の任務を闡明し、學校教育をして本來の任務に合せしむるやうにする爲めには、教育史によりて過去の教育事實を研究することが必要である。これ教育に缺くべからざる主なる理由の一つと考へるのである。

次に教育は人間をその對象として居る仕事である。而して人間は萬物の靈長として神聖なるものであるが故に、人間の取扱に關しては、試験若くは實驗といふことは十分に行ひ難い。即ち人間を試験的に教育するとか實驗的に教育するといふことは、嚴密なる意味に於ては出来ないことである。尤も自己の信

念の下に新しき教育法を施すといふことはあるけれども、これは所謂實驗とか試験とか云ふべきものではなくて、自分の信ずる最良法によつて教育するまでである。之に反して未だ研究の十分につかぬ方法を教育上に採用するといふことは許すべからざることである。何故なれば、人間は他の動植物の如く、或は無生體の如く、試験又は實驗の材料に供せらるべきものでないからである。此の如く教育の原理や方法は、何れが果して正當であるか、何れが果して不正當であるかを決するには、これは人爲的の試験若くは實驗によることは出来ないから、廣く社

會の經驗的事實によりて判定するより外に道がない。即ち過去に於ける教育事實の中に於て充分に教育上の効果を收めた場合と之に反する場合とを事實に就いてよく研究し、その成功失敗の原因を探り、これを基礎として自己の採るべき教育の方法を確實ならしむべきであると思ふ。此の意味に於て教育史は、實際教育に大切な教訓を與へるものである。尤も私は所謂實驗的教育學などで唱へて居る研究の價值を否認せんとするものではなく、寧ろ實驗的研究・試驗研究の必要を認めるものであるが此の場合に於ても、私は生徒を試験・實驗の對象としないで、

或教育上の事實に依つて、確實なる教育上の原理を決めようとするのである。教育其のものを直接に試験的にすることは私の採らないところである。而して教育史は過去の社會に於ける教育の事實の歴史であつて、之は教育方法の試験の記録ともいふべく、即ち教育其のもの、試験の歴史とも見ることが出来る。此の意味に於て教育史の研究は大切な教訓を實際教育家に與へるものである。

尙以上述べ來たつたやうな教育の事實の方面ではなく、教育の思想・理論に關する方面に就いて見ても、教育史の研究は極めて大切である。今日の教育界

には、種々なる新しい思想・主義等が出て、實際教育家をして殆んど送迎に遑なからしめる有様であるが、これ等の新思想に對して、實際教育家の採るべき態度を決する爲めには、其の一半は之を教育史の研究に俟たなければならぬ。而して教育に關する思想は、一般思想と相連關して種々なる歴史を経て來て今日に至つて居るのである。教育に關する思想界に於ても、一般思想界に於けると同じく、其の思想を正當に理解し、評價するには、其の淵源するところに遡りて之を明にし、其の思想の脈絡・傳統を尋ねて之を決定しなければならぬ。其思想は如何な

る要求、如何なる事情の下に起つたか、如何なる沿革變遷を経て今日に傳つて來たかを明かにする必要がある。これを明かにするには教育史に依らなければ

ならぬ。それ故に教育史の研究は教育上の思想を定める上に於ても必要缺くべからざるものと言はねばならぬ。『教育の實際』第十卷第十號)

家庭教育の基礎としての服従性

高島平三郎

(イ) 威嚇的服従。これは所謂

ばならぬ。

「おどしつける」と云ふことで之を受くる兒童に在りては、甚しく恐怖心を惹起する。恐怖は消極的感情であつて、兒童を萎靡せしめ、延いては一種の病的に陥らしむるが如き、實例も尠くない。それ故便利なりとて此種の服従方法を屢々行ふは控へね

(ロ) 習慣的服従。これは、兒童が服従することを、習慣とするのであつて、殆んど無意識に行はれる。其方法の如何によつては、非常な弊害が伴ふ故、これ亦賛成することは出来ぬ。

(ハ) 利益的服従。これは即ち兒童に、或る利益を示して服従

せしむることであつて、一種の利益と服従との交換である。例へば或る果物を與へて斯くすれば之を與へんといふの類で、兒童に取りては、必然或る利益が伴ふものであると云ふ觀念を起さしめて、甚だ不可である。斯様な觀念が増長する時は、非常な害毒を來す。今日、社會に收賄などが行はれるのも、畢竟此時代に於ける教育法が其禍根をなして居るのであらうと信ずる。されば此方法は最も戒むべく、忌むべきもので、努めて避けねばならぬ。反之或る善行を賞して、推奨的に物を與ふるのは、一の勸善の方法で、必要なることである。要するに此間の取

捨は慎重に考慮すべき事である

(ニ) 合理的服従。これ即ち道理に服従せしむると云ふことで等しく推奨し折檻するにも、宜敷理非を説き聞かせて、其道理に服従せしむるやうにせねばならぬ。此種の服従の習慣をつけるのは、最も必要なことで、且つ良好の方法である。兒童に理非の識別の出来る十一二歳の頃から、殊に此方法に依らねばならぬ。漫りに叱責し、或は威嚇して服従せしむると云ふやうな事は、害あつて益ないことである。

(ホ) 感情的服従。これは兒童自身の感情より服従せしむるもので、父母兄弟等が兒童に與ふ

る深厚なる慈愛、情義等より兒童が感激して服従するのであつて、最好の方法である。かの客來

などの場席に、兒童を捉へ、客の面前で成績が劣等であるとか、或は落第したなどと云つて赤面させる様なことは父母は左まで意に留めてゐることではなからうが最も忌むべきことである。子供は之が爲めに却つて非常な反感を起し、服従せぬやうにな

四
五

學童體格標準率の必要

——(體格改善の爲め)——

り、遂に收拾すべからざる害惡を醸することがある故、殊に注意を要する。

以上五者の中前三者は他より一種の注入的に施すものであつて、之を他律と云ひ、之に反して兒童自身が眞の服従心を喚起するのを自律と云ふ。常に兒童をして此自律的方面に向はしめるやうに教育することは最も肝要である。(『兒童研究』第二十卷第一號)

國民の體格問題に關し學術上に於ては近來ユーゼニツクスなどの研究もあり、各國とも改良

方法に就て攻究してゐるが、我國に於ても夙に識者間の問題となり、最近には一般社會の注意

を惹くやうになつて來た、此時勢の傾向は文部省をして小國民體育獎勵の一方法として全國學童の體格檢査表を作製せしめるに至つたが、之に就き、其實地調査を囑托されてゐる古瀬醫學士は次の如く語つた『此事は數年前から計畫を立てゝゐたのであるが、如何にして全國學童の標準體格を知り得べきかに就て種々攻究した結果、本年三月略ば標準となるべき身長、體量及び體格の強、中、弱、等の數字を得て、之を全國各府縣に示す事が出來た。之に對し目下各府縣から調査の報告が集まりつゝあるが、此標準率は高過ぎると云ふ説と、適度だといふ説との

二つの意見があつて、本年九月頃には全部報告を纏めて、確實な標準を作り出せる筈である、體格檢査の標準率を初めて作つたのは獨逸で、之を模倣したので米國である、米國の學校では毎年學童體格檢査の際學童各自の記入カードに全國平均の標準數字を刷り込んで、之と對照せしめる便宜を取つてゐる、我國の體格檢査は普通其學校だけの標準で律してゐるが、假に一般の標準率と比較し得るとしても從來は極めて不正確を免れ得なかつた又體格の差違は地方の風土、生活狀態等に依て生ずるもので一般に山地は海岸に比し身長體量共に劣るのが事實だが、

其原因に就ては種々議論があるけれども、歸する所食物の良否が根本で、之は海岸の方が一般に優つてゐるからである、併し海岸でも土佐、薩摩、琉球等は身長が低く、琉球の七歳の子供は東京の六歳の子供と同じ位である、又都會の子供には低能でも白痴でもないのに、一般の健康な子供と同様教育の出來ないのが百分の三乃至五の割で交つてゐる、之は結核先驅症、貧血症等の爲で、之等の者に對しても目下の日本では別に特殊教育の施行法が行なはれてない、獨逸あたりでは此種の兒童に對しては最も多く空氣と水と日光とを利用し得る屋外教育を施す事

になつてゐる、獨逸が此度の大戰で、大敵を相手にして異數の勢力を現はし得るのも、一は平素斯る微妙なる點に注意が届いてゐたからである、吾國の都市に於ても早晚此必要は痛切に感ぜられるのであらうが、兎も角も體格の統一的標準と云ふ事は衛生行政上、國民の體格増進上最も必要な事である』云々。

(萬朝報八月三日)

A. あなたは何故保母におなりになりましたか？

B. 種々な理由がございましたが何よりも先づ主なる理由は子供が好きでしたからでございます。

A. 今でも好きですか？

B. はい。

A. これからも好きでおいでせうか？

B. 益々好きになつて行くらうございます。

A. あなたは非常に幸福な方だと思ひます。

B. 私はこの頃、切りに人間は何うしても眞面目でなければいけないといふことを感じます。今では子供を相手に愛と眞實とを目掛けて進んで行くより他には力弱い私に對して、開かれて居る道がないやうに思はれます。私のこの考を夢だとお笑ひ下さるでせうか。

A. イ、エ、何う致しまして、あなたをお羨しく思ふばかりです。

東京女子高等師範學校教授下田次郎氏新著『母

と子』は、同氏の前著『胎教』の姉妹篇として、

近く發刊せられた、愛重すべき好著である。母と

子、書名何ぞ既に有趣味なる。而して此の有趣味

なる項目を捕へて、之れを最も有趣味に記述論述

する處、蓋し著者獨特の壇上であ

る。試みに其の目次を見るのみに

ても、此書の此の書たる趣きは既

にあらはれて居る。一、母の讚美

、二、妊娠と出産、三、母の喜び、

四、母の情(一)五、母の情(二)、六、日本文學に

あらはれたる母、七、西洋文學にあらはれたる母、

八、子の思ひ、九、母の進化、十、愛、十一、母

としての教育、十二、子の養育(一)、十三、子の

養育(二)、十四、子の教育(一)、十五、子の教育

(二)、十六、母の救済、著者の教育的にして詩人

的なる考察は充分によく發揮せられて居る。此の

種の問題に就て我國の權威たる著者は其の豊富な

る材料を料理して、特に此の小著をなすに多大の

苦心の存したること、思はれる。學問的よりも道話

的に、理的よりも情的に、よく消化せられたる論

述の順序と筆致とは、一般家庭殊に若き母の爲に

伴侶たらんとする此の著の目的を充分に成功せり

といふべきである。六かしいことは良き通俗書を

作ることである。而して此の書は其の上乗なるも

のである。情味が豊かな柔い筆を以て扱はれたこ

の新著は、保育に關する乾燥した理論の砂漠の中

に於て、清水滾々たる綠地にも譬へらるべきであ

る。本誌讀者諸君にも廣く之をすゝめたいと思

ふ。(東京市京橋區實業の日本社發行定價金七十五錢)

下田次郎氏著 『母と子』

夏の玩具追記

記 者

■夏の玩具に就ては既に前號にも記載いたしました。それがその後の調査に係る分を少しく記してみることと致します。それは主に本年になつて新に案出され、製作されたものでありますが、先づ數ある玩具の中では木製の自働ボートの如きは子供の喜ぶものでありませう。

■其の帆は風の向きに随つて、何れにも自由自在に働き、船底には鉛の重味があつて、帆の動くまに／＼舵も自然に方向を轉じて船は輕快に航行する仕掛になつて居ります。大きさは種々あつて値段も亦様々でありますが、大小に依つて二十七錢位から一圓九十錢位までに分れて居ります。

■此外船の玩具は澤山ありますが、自働するもので面白いのはモーターボートであります。これは木製とブリキ製の二種があります。兩方ともアルコール、ランプが裝置されてありまして、一度

これを焚き付けると、三十分間位は機械の運轉で水の中を自由に航行するのであります。値段はブリキ製のものが一圓二十錢位、木製が一圓八十錢見當であります。

■又センマイ仕掛になつて居るブリキ製の自働ボートや自働軍艦があります。値段はボートの方が四十錢から七八十錢まで、軍艦の方が一圓二三十錢であります。自働物以外には、木製セルロイド製の各種の船があります。

■船以外の玩具としてはセルロイド製の鳥類や魚類があります。是等は五個一組の網入で三十錢であります。其他水中の玩具としてはゴム及びブリキ製の潜水人形があります。この人形はゴム管によつてゴム球につながれて居ります。ゴム球を握れば件の人形は巧みに浮き沈みする仕掛になつて居ります。

■砂遊びの玩具としてはシヤベル其他コップ様のもの四個を一組としたものが一番多く焼繪の施してある木製が一組四十錢位であります。取外しの出来る組立ての砂車も同様に焼繪が施してあります。木製が一個三十五錢位から六十錢位まであります。

雜 錄

○文部省保育講習會

文部省の幼稚園長及保姆に對する保育講習會は既報の通り八月一日より同十日まで東京女子高等師範學校講堂に開催せられた。一日は午前九時より開會式舉行、高田文部大臣臨席一場の訓示あり。横山督學官の講師紹介及一般報告について、講師總代として安井哲子氏の挨拶ありて式を了り。同十時より直に講義に入つた。講習の項目は安井講師の『保育上特に研究を要すべき諸問題』竹島講師の『幼稚園保育に必要な自然物』倉橋講師の『保育法原論』にて毎日午前八時より十二時迄講習せられた。尙科外講演として三日午后一時より河野清丸氏の『モンテッソーに就て』及び五日午后一時より岸邊福雄氏の『亞米利加幼稚園視察所感』あり、又文部省よりの依囑ではないが、會員有志の爲に西端陸軍大佐の『自然と食物』と題する講演が九日午后二時よりあつた。かくて十日午前十一時より閉會式を舉行、講習員百六十六名に對し講習證書を授與せられ。田所普通學務局長の訓示あり。講師總代として倉橋惣三氏の挨拶及講習員總代の挨拶ありて會を閉ち、紀念の

爲一同の寫眞を撮影した。此の外第一日に於て、東京女子師範學校より講習員一同に晝餐の饗應あり。午后フレール會よりは簡單なる茶菓を準備して歡迎の意を表し、第九日には講義後講師慰勞の意を兼ねし會員茶話會が開かれた。

○フレール會總會

本會總會は來十月二十九日午后一時より東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て開催の筈。詳細は次號に於て發表すべし。

フレイベル會規則 (抄)

第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハフレイベル會ト稱シ東京ニ置ク

第三條 會員ダラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保

育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ齎出スベシ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノ

ハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ

第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ

一、總會、毎年十月之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育參考品

幼兒成續物展覽、會務ノ報告等ヲナス

二、常會、毎年二月、六月、ノ第二土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演

說、談話、協議、實驗等ヲナス

尙毎年四月廿一日特ニフレイベル紀念ノ爲メ會ヲ開ク

三、組合會、會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組

織ス

但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承諾ヲ經ルモノトス

一、雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス

二、前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

本會會長

中川謙二郎

本會幹事

(イロハ順)

井村 くに 池田 トヨ 坂内 ミツ
大瀧 晴 和田 實 和田 くら
倉橋 惣三 安井 哲 福田 ふく
小向 きみ 雨森 劍 坂井 ふで

本會評議員 (イロハ順)

乙竹 岩造 吉田 熊次 田中 ふさ
野口 幽香 横山 榮次 藤井 利譽
下田 次郎 日田 權一

本會客員 (イロハ順)

伊澤 脩二 巖谷 季雄 岩谷 英太郎
波多野 貞之助 細川 潤次郎 本間 辰藏
戸野 周次郎 大瀬 甚太郎 奥 好義
尾田 信忠 大久保 介壽 嘉納 治五郎
唐澤 光徳 谷 本 富 高島 平三郎
棚橋 源太郎 多田 房之輔 田中 敬一
中島 力造 中村 五六 野尻 精一
野上 俊夫 久留島 武彦 松本 亦太郎
松本 孝次郎 馬上 孝太郎 富士 川游
小西 信八 淺岡 一 笹部 顯宜
櫻井 光華 三島 通良 篠田 利英
東 基吉 瀬川 昌書 尺 秀三郎
菅原 敬造

羽仁もと子主幹

子供之友

本誌は十分教育的に編輯された子供雑誌で御座います。記事も挿畫も子供の喜ぶものばかりです。楽しんで讀む間に、頭腦をよくし感情を高尙にし、善良なる習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一つの非教育的なる挿畫も、一行の不注意なる文章もありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる補助機關であります。幼稚園及び小學校時代の御子様方のために、熱心によき讀物を求めて居らるる御家庭におすゝめ致します。

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回五日發行)

婦人と子ども

第十六卷第九號

大正五年九月五日發行
大正五年九月五日納本済

印刷所

凸版印刷株式會社本所分工場

定価 十一銭半 分年 税 六銭 十 婦人友人社 東京 雜司 谷 番 〇〇 六一 替振